



第143号

令和元年10月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
濱崎嘉一郎
(株)昭和堂

人生の足跡

「悔いのない人生とは？」

玉園同窓会副会長

野田 和宏



教職を離れ13年、1日、1週間いや1年間の時の流れの速さを痛切に感じる年代になってきた。若い時代によく「光陰矢の如し」と言っていたものだが、年齢と共にその意味の違いを感じている。

10代、20代は、することが多く忙しい日々を送る中で、1日の時間をもっと多くあればいいのという感覚で日々を送っていた。ところが、現在はすることはあまりなくゆとり

がある中でも、1日の「時の流れの速さ」を感じている。この違いは、何だろうか。つらつら考えるに、することが多く時間が足らないという意識の中で生じた「時の流れの速さ」に反して、高齢化すると例えば24時間の時が12時間にしか脳裏に残っていないという感覚ではないだろうか。ある意味では認知症的な現象の中から感じている「時の流れの速さ」と思われる。

高齢の人たちは、残り僅かな人生の中で、有意義な生活を送りたいと思うのは誰しも考えることではないだろうか。

このような中で「自利利他」という仏教用語と出会う機会があった。はじめは、どういうことだろうと思ひ言葉の意味を調べてみると、「自分が修行して得たものを自分のために活用するだけでなく、他の人のためにも活用しなさい」という教えだそうである。この言葉の逆が「我利我利」だそうである。

昔「我利我利亡者」という言葉を先輩から教えてもらったことがあった。今考えると、この言葉は、自分で修行して得たものを自分だけのために活用するような人ということになる。人生50年振り返ってみると若い時代は、まさに「我利我利亡者」の時代であった。

人のためにといい考えの前にまずは自分自身が生きるためのことを最優先にした時代であった。しかし、退職後友人と一緒に取り組んだ野菜づくりを通して、苦勞して作った作物を食べきれなくなり、もったいないので周囲の人に分け与えるという行為をするにいたり、多くの人から感謝の心をいただく機会が増える中で学んだことは自分のためだけでなく人のためになれば、周囲と関わる人々の輪が広がり「やりがい」という楽しみを味わうことができるようになってきた。

野菜づくりは、施しが多ければよ

りよい作物ができる。そのためには体力も使い苦勞するが、結果的には「やってよかった」という成就感や満足感が心が充実する。

また、作物を周囲の人に配ることで、多くの人とのコミュニケーションができ、感謝の気持ちをいただくことができている。まさに「自利利他」の精神は、自分自身だけでなく多くの人々にも幸せを醸し出してくれるという思いがする。

平成から令和の時代になり、私自身も知らず知らずのうちに「昭和・平成・令和」の三つの時代を歩んできたことになる。自分の人生を振り返ると何か常にプラス（ポジティブ）の部分とマイナス（ネガティブ）の部分の両極があるような気がする。私自身ポジティブな人生を歩んできたと思うが、実はネガティブな部分が多数多くあり失敗した体験もあるのも事実である。ただ失敗し悩んだ時期の解決方法の最終的な方法は、時の流れに任せることも必要であると経験知から感じている。

これから自分の最期を迎えるまでにどれくらいの時間があるか未知数であるが、精一杯元気で過ごせる人生でありたいと考える。そのためにはどうすればよいか。少しゆとりができる中で悔いのない人生をどう生き抜くか考える、今日この頃である。

特別寄稿

万葉集と長崎

〜令和を迎えて〜



長崎県立虹の原特別支援学校教頭

中島 恵美子 (旧姓・西島)

〈万葉集と太宰府〉

新元号「令和」が、万葉集に典拠することから、万葉集に注目が集まりました。万葉集が卒業論文のテーマである私にとっては、万葉集の魅力を振り返る契機になりました。

万葉集は約千三百年前に成立した日本最古の歌集です。全二十巻、約四千五百首の歌を収めています。

作者は、皇族や貴族、職業歌人や民衆等、幅広いのが特徴です。内容は、宮廷関係の歌や自然を愛でる歌、恋の想いや愛する人を失った悲しみなどの多岐にわたっています。万葉集には、大和地方（現在の奈良）を中心とする中央歌壇、東歌や防人歌の東国歌壇、そして大宰府を中心とする筑紫歌壇があります。

大宰府は、「奈良の朝廷」に対して「遠の朝廷」と呼ばれた行政府です。その長官が大伴旅人でした。筑紫歌壇は大伴旅人や筑前守の山上憶良が中心です。二人は万葉集を代表する歌人でもあります。



大宰府政庁跡

〈令和と万葉集〉

「令和」の典拠となった「梅花の宴」は、太宰府の大伴旅人の邸で開かれた宴です。万葉集・巻五にある「梅花の宴の歌三十二首」の序文である「初春の令月、氣淑しく風和らぐ。」から「令和」が生まれまし

た。梅花の宴には、杵岐や対馬の役人も参加しています。

〈万葉集と長崎〉

万葉集は長崎ともゆかりがあります。五島や杵岐・対馬などの島々は、日本から中国や朝鮮半島へ向かう朝廷の使者たちの船の寄港地として万葉集に登場します。国境の島・対馬で詠まれた防人の歌もあります。そうした島々に残る万葉歌のいくつかをご紹介します。

〈対馬にかかる枕詞〉

和歌には、「たらちねの母」や「あおによし奈良」のように、「枕詞」という修辭法があります。対馬も「ありねよし」という枕詞をもっています。

ありねよし対馬の渡り海中に
幣取り向けて はや帰り来ね

歌意は、「交通の難所である対馬海峡の海の神に捧げ物をして、一日も早く帰って来なさい。」万葉集・巻一にある遣唐使に贈った饞の歌です。「ありねよし」は、「在嶺良し」。対馬の山々を称えた、対馬を象徴する枕詞です。

〈防人の歌〉

対馬は、巻十四の東歌にも登場します。

対馬の嶺は下雲あらなふ可牟の嶺に たなびく雲を見つつ偲はも

防人として対馬に派遣された作者が、山に登って遙か彼方を望み雲を眺めて、東国の家族を偲んでいます。

〈遣新羅使の寄港地・対馬〉

万葉集・巻十五には、新羅に遣わされた使者たちが家族との別れを悲しんだ歌や、海路にあつて旅を嘆き愛する人たちへの思いを詠んだ歌等があります。日本最後の寄港地である対馬で詠まれた歌もあります。

百舟の泊つる対馬の浅茅山
しぐれの雨に もみたひにけり

歌意は、「多くの舟が停泊する対馬の浅茅山は、しぐれの雨に一面に紅葉してしまった。」

竹敷の黄葉を見れば我妹子が
待たむと言ひし時そ来にける

歌意は、「竹敷の紅葉を見ると、我が妻が待つっていると云った時は来ているのだ。」

浅茅の浦や竹敷に停泊した遣新羅使たちは、日本最後の寄港地である対馬の美しい景色や季節の移ろい、遠く離れた都の妻への思いを歌にしました。対馬市美津島町には歌碑が建立されています。



対馬の万葉歌碑

〈杵岐で斃れた遣新羅使〉

遣新羅使の一員だった雪連宅満は数々の海難に耐えた末、疫病に罹り杵岐で死去しました。

「杵岐島に到りて、雪連宅満の忽ちに鬼病に遇ひて死去せし時に作りし歌」があります。

「雪」は「イキ」即ち「杵岐」で、「雪氏」は、杵岐で亀卜を司った氏です。宅満は雪氏一族で、卜占を担当する遣新羅使でした。

石田野に宿りする君 家人の
いづらと我を問はばいかに言はむ

歌意は、「石田野に眠る君よ、どこにいるかと家人が私に尋ねたら、何と答えようか。」

疫病で大切な仲間を失った悲嘆が、長歌三首・短歌六首に残されています。右の歌を刻む歌碑が、石田町の万葉公園に建立されています。



杵岐の万葉歌碑

〈遣唐使の寄港地・五島〉

万葉集・卷一に万葉集を代表する歌人・山上憶良の「好去好来の歌」という遣唐使に贈った餞の歌があります。

「好去好来」とは、「さようなら、お元気で。無事に帰ってきてください。」という意味です。この歌に、五島が「値賀の崎」として詠み込まれています。

長歌という形式の長い歌ですが、内容は次のとおりです。

「神代より日本の国は言霊の栄える国であり、天皇の勅命を受けて遣唐使として行かれるのだから、神々がしっかりと守って下さいませ。」

遣唐使の仕事を終えての帰路では、神々が手を引くように、値賀の崎から一直線に帰ってこられることでしよう。つつがなく無事に出発されて、早くお帰りください。」

長歌の結びの句は「つつみなく幸くいまして はや帰りませ」という祈りの言葉です。

「値賀の崎」即ち五島・三井楽は、命懸けの遣唐使にとって、往路では日本最後の寄港地であり、帰路においては日本最初の寄港地だったので。

〈荒雄伝説と蜻蛉日記〉

万葉集・卷十六には「筑前国の志賀の白水郎の歌十首」と題する連作があります。この連作が詠まれた事情は次のとおりです。

「大宰府の役人から、対馬に食料を送る船の船主を命じられた津万呂に代わって、志賀の海人の荒雄が三井楽の崎から出航した。しかし、荒雄が乗った船は暴風雨に遭い沈没してしまった。遺された荒雄の妻子が荒雄を偲んで歌を詠んだ。妻子に同

情した山上憶良の歌とも言われている。」

連作の一首目は次の歌です。
大君の遣はさなくにさかしらに行きし荒雄ら沖に袖振る

歌意は、「帝がお遣わしになったのではないのに、自分から進んで行った荒雄が、沖で袖を振っている。」

連作からは、幻でもいいから、もう一度荒雄に会いたいという妻子の思慕の情が感じられます。三井楽の万葉公園には、この歌を刻む歌碑が建立されています。



五島の万葉歌碑

その後、荒雄の話は伝説となり、終焉の地となった三井楽は「死者に会える場所・みみらくの島」として、平安時代の『蜻蛉日記』にも登場します。三井楽には蜻蛉日記の歌碑もあります。

『新学習指導要領の具現化を目指して』 我が校の取り組み

「ゆとりと充実」とか「脱ゆとり」といわれ、なにかと話題をよんできたこれまでの学習指導要領が改訂され、「子ども主体の学び」を重視して、平成29年3月31日告示されました。

新学習指導要領では、これまで育まれてきた「生きる力」を具体化して、その目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」とし、その具現化の実現を目指し、学習指導要領の基本的な考え方を示す、総則を中心に抜本的な改訂を行っています。

「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」「子ども一人ひとりの発達をどう支援するか」「実践するために何が必要か」といった観点にわたって、教育課程や教育活動の充実・改善を図っていくことが求められています。

各学校では、完全実施を見据え、これまでの取り組みを捉え直して、学校の課題を洗い直しその改善・充実を図っている取り組みが進んでいるものと考えます。

そこで、本会報では、各校の取り組みの現状を出し合い、研修を深めていきたいと考えました。

未来へつなげる力を育む

国語科授業の創造

長崎市立小神小学校校長 楠木良浩



一 はじめに

人工知能等の発達による情報化やグローバル化の波は、社会全体や私たちの生活を大きく変えようとしている。これらの急激な変化に対応す

るため、学校教育においては、子どもたち一人ひとりが国際的視野をもつとともに、予測困難な時代にあっても乗り越えていく「生きる力」を身につけることが求められている。そのためには、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱の育成が重要である。

そこで、本校では、これらを「未来へつなげる力」と定義し、その力を身につけさせるために「主体的・

対話的で深い学び」のある授業を創造している。

二 研究の内容と方法

(1) 授業研究

○年間指導計画をもとに、原則として「一単元一指導事項(「思考力・判断力・表現力等」から一つ)と「知識及び技能」から一つ)で仕組む。

○一単位時間に、「魅力的なめあて」「心に響く交流活動」「掘り下げた発問(提示)」「明日へつながるふり返り」を仕組む。

魅力的なめあて

子どもが主体的に授業に向かうためには、「解決したい」「調べたい」「やってみよう」等の関心・意欲を高めることがとても重要になってくる。つまり、授業のめあてが、子どもにとって必要感があり、魅力的でなければならぬ。

- ①理由を問うめあて
- ②時期・場所を問うめあて
- ③数等を問うめあて
- ④是非・有無を問うめあて
- ⑤比較を問うめあて

心に響く交流活動

めあてについて、一人調べによって自分の考えを持った子どもは、それが正しいかどうか、友達はどうなることを考えているかを知りたくなる。そこで、数名の考えを発表やホワイトボード等で全体に知らせた後、自

分の考えはどの考えに近いかをノートプレートを使って表明させ、交流の場を仕組む。同じ考えの子と交流すれば、自分の考えが強化でき、違う考えの子と交流すれば、相手を説得する対話となる。誰と交流するかは、各学年の発達段階やめあての種類等が変わってくるが、自分の考えを相手の心まで響かせるような話し合いにすることが大切である。

掘り下げた発問(提示)

交流活動の後、全体での話し合いに移る。しかし、子どもたちの発表だけでは深い学びまで到達することができない場合が多い。そこで教師の出番である。事前に用意していた発問や提示(さし絵・文カード等)によって、子どもたちの思考や視点を変化させることで学びを深めていく。

- ①複数の話題を一つに収束する。
- ②一つの話題を複数に拡散する。
- ③話題を別のものに転換する。

明日へつながるふり返り

「めあて」に対する「まとめ」で授業が終わるのではなく、子どもがその時間でどのように考えが変わったか、どんなことを学んだかを意識化させることが大切である。今日の学びが明日につながるようにしていきたい。

- ①新たに学んだこと・気づいたことに対するふり返り
- ②交流活動等での友達の考えに対するふり返り

(2) 日常の実践活動

- 学習規律や話し方・聞き方について職員で共通理解し掲示する。
- 家庭学習の手引きを作成し、学校と家庭で共通理解する。
- 朝の会、帰りの会等で、話す・聞く活動を行う。
- 全学年で日記指導に取り組む。

「つながり」のバージョンアップを目指して



対馬市立雞知中学校長 中島 清志

の連携は不可避な状況になってい

す。新学習指導要領では、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の重要性が強調されています。これは今、本市において求められている学校教育の在り方と一致するものです。

対馬市の人口は、1960年代の約7万人をピークに、現在は約3万人に減少しました。少子高齢化の進行による農林水産業の担い手不足、生態系の劣化、空き家の増加などの問題が生じています。小・中学生の人数は、同じ期間に約7分の1になりました。また、中学校卒業後、3割前後の生徒が進学等で島外に出て行く状況も続いています。このような中、官民学の連携による持続可能な社会の実現を目指す取り組みも始まっています。「課題先進地」対馬においては、学校教育の充実を考えると、その基盤となる地域社会と

- スキルタイム(週2回)には活用問題に取り組みさせる。
- 美しい言葉を意識するための活動をする。
- ・音読集会
- ・俳句作り
- ・詩の暗唱等

りの中で、自らの考えを深め、よりよい考えを見いだす生徒の育成」と設定しました。研究と実践は、その緒に就いたばかりですが、具体的な取り組みの中から、主なもののみを紹介いたします。

一 学校暦や単元構成の工夫

新学習指導要領に示された3つの柱からなる資質・能力は、教育課程全体で計画的に育んでいく必要があります。今後、各教科や学校行事等における学びを、どのようにつなぎ、どの場面でのような資質・能力を育んでいくのかを整理し、年間指導計画や学習指導案、学校暦などの工夫・改善を図っていきます。

二 ふるさと学習の充実

対馬市では、全ての学校が「ふるさと学習全体計画」を作成しています。これは、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等との関連を整理し、3年間の学びを体系的に示したものです。この学習を通して本校では、対馬の歴史や文化等への関心を深めるとともに、学年段階に応じた課題解決能力を身に付け、持続可能な社会の実現に貢献しようとする意欲や態度の育成を目指しています。多くのゲストティーチャーをお招きしていますが、島外から移住された方を含め「対馬愛」にあふれた方ばかりです。生徒にとっては、ふるさととのよさを再発見したり、人生の先

三 ICT機器の活用

輩からよりよい生き方を学んだりする貴重な学びの場になっています。今後、小学校との学びのつながりにについても検討し、学習の充実を目指していきます。

対馬市では平成30年度に、全生徒が1台ずつタブレット端末を使用できる環境を整えています。例えば音楽の授業では、歌唱テストを一斉に個々の端末に録音することで、一人ずつ歌うという生徒の心理的負担の軽減に加え、時間短縮や客観的評価材の蓄積につながるなど、徐々に有効な活用事例が集まり始めています。今後、各教科等における有効な活用場面や活用方法の検証、特別支援学級における活用の在り方、持ち帰りによる家庭学習とのつなぎ方などについても、先行事例に学びながら研究を深めていきます。

本校は、生徒数165名の小規模校です。生徒は、素直で明るく、学校行事や生徒会活動、部活動等に積極的に取り組んでいます。一方、学習面では、真剣に授業に臨んでいるものの、新たな学びにつながる知識や技能の習得が不十分であることや、根拠を明確に示しながら説明する力が未定着であることなどの課題があります。

ここまで述べた地域や生徒の実態、教育界の動向等に鑑み、校内研修における研究主題を「他との関わり

新学習指導要領では、社会と学校、学校間、教科間など、様々な「つながり」のバージョンアップが求められています。少子高齢化などに伴う諸問題には負のイメージがありますが、そこには学びのエネルギーが存在します。身近にある課題を、人と人、学びと学びをつなぎながら解決し、今と未来をつなぐことができる力を身に付けた生徒を育成できるように、全教職員で研究と実践を重ねていきたいと考えています。

わたしの教育実践

毎日、学級全員と言葉を交わす



五島市立富江小学校 寺田早苗

「毎日、必ず学級の子ども全員と言葉を交わしたい。」

そう心から思ったのは、学級に不登校傾向の子どもがいたときのことです。学校と保護者が連携し、協力して支援を行いました。

卒業式には学級全員で参加することができ、教え子たちを笑顔で見送ることができました。しかし、私の胸に残ったのは「子どもの言葉や表情から、抱えている不安に気付くことができなかった。」という深い後悔の念でした。

それからは、毎日、必ず学級の子ども全員と言葉を交わすことを続けてきました。ぼろりとこぼす言葉や視線から、子どもの不安や揺らぎにいち早く気付きたいとの一心でした。帰りの会であいさつをした後、私が廊下に立ち、すべての子どもとハ

イタッチをするようにしました。照れながらハイタッチをしてくる子。力いっぱい手をたたいてくる子。ぎゅつと抱きついてくる子。

「体育の時間、跳び箱の練習を一生懸命にしていたね。」「今日はみんなの前で発表ができたね。」など、その子の一日の頑張りや成長を短い言葉で伝えます。暗い表情をしたり、いつもと様子が違ったりする子がいると、呼び止めて話を聞きます。「子どもは褒められ、教師は子どもを褒めて終わる」というサイクルを作りました。一人ひとりからすると、触れ合う時間は数秒に過ぎません。しかし「子どもは、『自分を認め、支えてくれる人がいる。わずかな数秒であったとしても、学校の中で認められる居場所がある』そんな瞬間を子どもたちが作ってやりたい。」という思いで取り組みを続けています。

子どもへの心に寄り添い、心を重ねられる教師でありたいという思いが私を突き動かしています。

伝える力



佐世保市立東明中学校 吉永充紀

私が勤めている学校は昨年50周年記念式典が行われた。そんな歴史ある学校に再び勤務することになり、光栄に思いながら日々を送っている。

初任は別の学校で2年間過ごし、勤務させて頂いた諸先生から「部活指導に行かないと通知表の点検をしてやらないぞ。」「職員室の片付けはこっちでしておくからまず部活動に行きなさい。生徒との時間を持ちなさい。」と心に響く金言をいただき、今の学校に赴任した。当時のエネルギーあふれる生徒には、思いが「伝わらず」ぶつかることも多かった。朝から晩までがむしやらに学級経営や授業の準備に取り組み、生徒の言動に一喜一憂していた20代の6年間。そのおかげで生徒・保護者・地域の皆様に成長させていただいた。よく叱咤激励をくださった部活動の保護者が、「子どものおかげで成長しました。」と話され、胸に突き刺さった。私だけでなく誰もが日々成長なのだ。

あれからいくつか勤務校が変わり、30代は頼りになる教師になりたいと願い奮闘したが、生徒に思いを「伝える」力が未熟で失敗もした。そして現在40代、「教師」としての伝えたい思いは今も変わらない。むしろ鮮明になっていく。「日々を大事に、積み重ねがなにより成長」と「伝える力」。今は週休二日の学校登校や部活動ガイドライン等の練習制限、働き方改革における出退勤管理、生徒と共に「日々の積み重ね」を実感する場面が減る現在、若い同僚や生徒への貴重な「伝え合う」時間を工夫して確保しないとけない。「部活動に行ってからね・・・」なんて言える同僚がどのくらいいることか。教師の一言で成長が左右される生徒、そしてここまで成長させていただいた保護者・地域の方々に、「伝える力」を高めて、学校や地域への恩返しが少しでもできたらと思う。



母校だより

目録
編

教職大学院で今後を考え 抜く ―僧敲月下門―

長崎大学教育学部長 松元 浩一



しようか。将来を予測するのは難しいところだ。

予測困難な時代を間近に迎えようとする今、その時代を生きる子ども達に必要な教育を一人で考えることは至難です。そのような時こそ、同僚との対話が生きるように思います。対話を通じて自らの考えを何度も練り直す。「僧敲月下門」であります。予測できない時代の到来に備えて教職大学院で一、二年かけて自身の教育観や指導観を何度も練り直すことは意味あることではないでしょうか。教職大学院は、ニュー

リーダーが集い教職について深く再考するための研修の場であり、事上磨練の場であります。十年後、二十年後の教育環境を思いながら、多角的な議論を通じて課題解決の一端を見出そうと専心できるのは、教職大学院だからこそです。

科学は、客観性と一般性を第一に問います。皆が同じ定義に拠って立ち、皆が正しいと思うことを拠り所として成り立っています。見方を変えれば、科学は、全員が間違っている。「科学的には」正しいことになりません。東日本大震災のときに見られた一部の現象がそうでした。そのように考えると、

科学教育・研究においても、どのみち文章や資料を正しく批判的に読み解く力は大事です。鵜呑みにしない力を養う。そのナツクの一つが、同僚との対話を通じて自らの考えを練り直す研修です。教員の場合、研修の一つの場は教職大学院に準備されています。あとは、そこで同窓諸氏が学び活躍するのみです。僧は月下の門を推すのか敲くのか。官吏志願の賈島は詩人韓愈に「僧敲月下門」の句を示し、そう問います。得られた答えは、月下に音を響かせる風情を想えば敲くのが良い。やはり一人で考え悩むよりも他者と論じ合うことで解決の糸口が見つかることは多いように思います。

同窓会の皆様、「大学院で今後を考え抜く」教職大学院のご活用をお待ちいたしております。

末尾になりましたが、毎年度玉園同窓会より、教育学部・教育学研究科在學生に物心両面の温かいご支援を頂戴いたしております。成績優秀者には卒業式に玉園賞を、音楽・美術・科学教育には教育奨励事業を、教員採用二次試験対策には面接等のご指導を頂いております。おかげさまで、教員採用試験の合格率も三年連続で増加し六割を超えております。この場をお借りいたし厚く御礼を申し上げます。令和元年度も残り半年、同窓会一人おひとり御多幸と御活躍を深く念じております。

附属校園だより

今年の研究

【幼稚園】

○ 研究主題

園生活の中で育まれる自己肯定感

○ 期日 令和2年度の予定

○ 場所 長崎大学附属幼稚園

【小学校】

○ 研究主題

未来を創る子どもの育成

○ 期日 令和2年2月6日・7日

○ 場所 長崎大学附属小学校

【中学校】

○ 研究主題

未来を創る子ども

○ 期日 令和元年11月1日(金)

○ 場所 長崎大学附属中学校

【特別支援学校】

○ 研究主題

生きる喜び・生きる力を育む教育課程の編成「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の整理を通して

○ 期日 令和2年2月10日(月)

○ 場所 長崎大学附属特別支援学校

令和元年度 総会報告

日時 令和元年6月23日(日)
場所 長崎市立桜町小学校内
地域・学校交流センター

出席者 会員
顧問・参与・理事・監事・
幹事・地区委員

第1号議案(平成30年度の事業報告・決算の報告)

事業報告

1 長崎大学新入生保護者会説明会において入会説明

2 現職会員の退職者への終身会員として入会案内

3 総会・理事会の開催

4 会報の発行(年2回)

『特色ある学校』
『集まりましたよ!』

佐世保市立金比良小学校長 高島秀雄
● 会報142号(10ページ)
5200部

『特色ある学校』
「さくらの学校」地域の方に学ぶ教室」

平戸市立田平小学校長 入口政信
「校内合唱コンクール」

県立長崎北陽台高等学校教頭
藤原 勝志

5 教育学部との連携事業及び支援事業

● ホームカミングデーへの参加
● 教職公務員採用受験者への指導
助言、面接試験の受け方指導等

● 卒業生への玉園同窓会賞の授与
● サークル活動への支援(科学・美術・音楽)

6 図書購入費助成事業
平成30年度の実績 長崎市立女の
都小学校他4校(1校につき10万円内)

7 青少年健全育成事業
平成30年度の実績
● 長与町子ども健全育成協議会
● 21世紀教育を支える会
(1団体につき5万円)

8 平成30年度玉園同窓会地区懇話会
● 日時 平成30年11月23日(金)
● 場所 恵美須屋(東彼・川棚町)
● 参加者 20名
(松元浩一教育学部長ほか会員)
● 世話人 原 源吾(彼杵小学校長)
藤田哲夫(小串小学校長)

● 講演 松元浩一(長大教育学部長)
「教員養成の現状・課題・これから」
● 懇親会

平成30年度玉園同窓会決算及び監査報告
● 次ページ掲載

第2号議案(令和元年度事業計画と

予算案の審議

● 理事会・総会交流会(6月)

● 専門部会(随時)会員の確保

● 会報の発行(143・144号)

● 地区懇話会の開催 開催地区
(佐世保南部地区12月14日(土)
ワシントンホテル)

● 教育学部との事業連携

● 各地区活動への支援

● 一般社団法人としての公益事業
の拡大・強化

(学校図書購入費助成、青少年
健全育成事業費助成、教職希望
学生等への支援事業)

役員紹介

令和元年度

敬称略

(顧問)

松元 浩一(長崎大学教育学部長)

小田 恒治(長崎県教育会理事長)

(参与)

峯 信子(OB・S19)

小西 峯一(OB・S28)

宮地 計(OB・S30)

(法人理事)

(会長理事) 濱崎嘉一郎(OB・S39)

(副会長理事) 野田 和宏(OB・S43)

(法人理事) 木村 晃一(OB・S35)

〃 山崎 滋夫(OB・S37)

〃 村上 光子(OB・S38)

〃 西平 千治(OB・S39)

〃 峰松 終止(OB・S41)

〃 中嶋 将晴(青雲中高校長)

〃 中川 幸久(教育学部教授)

〃 池田 浩(教育学部教授)

〃 森 浩司(片淵中学校長)

〃 松尾 克久(洗心小学校長)

(事務局長) 野中 元則(OB・S38)

(監事) 縣 恒則(OB・S37)

島崎 賢一(OB・S41)

有川 政秀(OB・S44)



平成30年度 収支計算書 (平成30年4月1日から平成31年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	720,000	770,000	△50,000	5,000円×154名
(2) 会費収入	2,320,000	2,292,000	28,000	{ 1,000円×2,197名 5,000円×19名
(3) 雑収入	30	5	25	
(4) 繰入金収入	2,500,000	3,000,000	△500,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,540,030	6,062,005	△521,975	
前期繰越収支差額	298,274	298,274	0	
収入合計(B)	5,838,304	6,360,279	△521,975	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,093,000	2,831,935	261,065	会議費・会報発行費など
(2) 管理費	2,725,304	2,669,922	55,382	借料・光熱水費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	20,000	30,000	△10,000	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,838,304	5,531,857	306,447	
当期収支差額(A)-(C)	298,274	530,148	△828,422	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	828,422	△828,422	

令和元年度 一般会計収支予算書 (平成31年4月1日から令和2年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	750,000	720,000	300,000	5,000円×150人
(2) 会費収入	2,300,000	2,320,000	△20,000	1,000円×2,220人 5,000円×20人
(3) 雑収入	10	30	△20	
(4) 繰入金収入	2,000,000	2,500,000	△500,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,050,010	5,540,030	△490,020	
前期繰越収支差額	828,422	298,274	530,148	
収入合計(B)	5,878,432	5,838,304	40,128	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,143,000	3,093,000	50,000	公益事業関係含
(2) 管理費	2,705,432	2,725,304	△19,872	借料・光熱費など
(3) 固定資料取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	30,000	20,000	10,000	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,878,432	5,838,304	40,128	
当期収支差額(A)-(C)	△828,422	△298,274	△530,148	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

動いています同窓会

令和元年度 図書購入費助成校

本年度の図書購入費助成校は、諫早市立上山小学校・平戸市立紐差小学校・五島市立崎山小学校・壱岐市立田河小学校・長崎市立香焼中学校です。



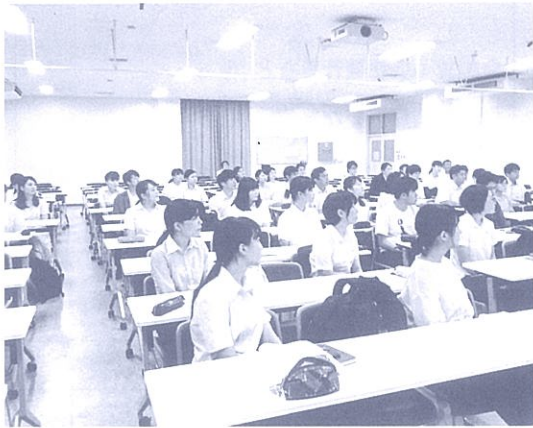
田河小学校



紐差小学校

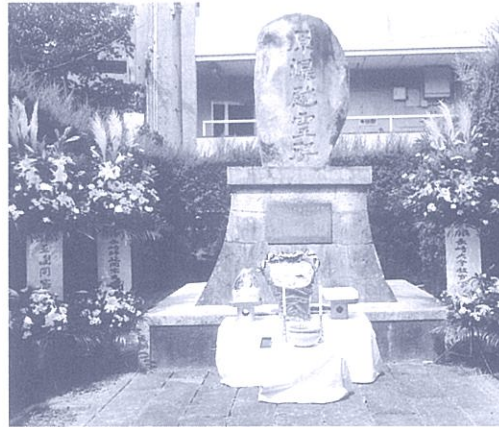
就職支援事業

教育・研修部による就職支援事業を、次の要領で行いました。
期日 7月30日～8月23日
場所 長崎大学教育学部
内容 個人面接・集団討議・小論文等
人数 延べ1008名



教育学部原爆殉難慰霊祭

8月9日、教育学部主催による原爆殉難慰霊祭が、文教キャンパスにある「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前で、厳かに執り行われました。松元浩一学部長、同窓会を代表して、濱崎嘉一郎会長から慰霊の言葉が述べられました。



ホームページを開設しました

本同窓会は、一般社団法人として、その活動状況や公益目的事業について、会員の理解をはかることはもとより、それ以外のより多くの人々に知っていただくことが必要になってまいりました。そこでホームページを開設いたしました。

今後の本同窓会の運営にあたって、大いに活かし新たな同窓会活動をめざしてまいりたいと思っておりますので皆様の御活用をお願いいたします。

ホームページアドレス

<https://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/ja/tamazono/>
メールアドレス nu-tamazono@mxm.cncm.ne.jp

一事一務一局より

地区懇話会「佐世保地区・南部」で開催
本年度は佐世保地区で開催することになりました。

◎期日 令和元年12月14日(土)

◎会場 ワシントンホテル

会員の皆様、御出席方よろしくお願
いします。

会費納入のお願い

今回も会費納入についてお願いいた
します。

(1) 会費 一人年額 1,000円

(2) 納入期限 本年11月末日

尚、会費を2年間滞納した場合は、
会員名簿から削除されますので、ご承
知おきください。(会報「たまぞの」
131号参照)